

令和元年度

過疎地域自立活性化 優良事例表彰



総務省地域力創造グループ過疎対策室

〒100-8926 東京都千代田区霞が関 2-1-2
TEL 03-5253-5536 FAX 03-5253-5537
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

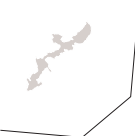
全国過疎地域自立促進連盟

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-5-4 加藤ビル3階
TEL 03-5244-5827 FAX 03-5244-5828
<http://www.kaso-net.or.jp/>

総務省・全国過疎地域自立促進連盟



過疎地域自立活性化 優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧



青森県大鰐町

プロジェクトおおわに事業協同組合
“人生を賭けて!”
～目指せ!日本の田舎町再生のお手本づくり!!～

静岡県松崎町

企業組合であい村蔵ら
夢の華咲かせます!
～人も町も元気もりもりプロジェクト～

和歌山県かつらぎ町

天野の里づくりの会
神話の里“天野”のむらおこし

鹿児島県枕崎市

特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花
「こどもの声は地域のチカラ!」
～山間部の過疎集落における子育て支援～



北海道夕張市

夕張市
地元高校生と共に創る地域交通の未来

青森県むつ市

わきのさわ温泉湯好会
コミュニティセンターを核にした小さな拠点による
協野沢創生プロジェクト～センターだよ!全員集合～

奈良県五條市

NPO法人五新線再生推進会議
歴史遺産「幻の五新線」と、南朝を核とした
産官学連携による奈良県南部地域の活性化

奈良県黒滝村

株式会社黒滝森物語村
地域が誇れる企業「株式会社黒滝森物語村」の
地方創生プロジェクト

島根県江津市

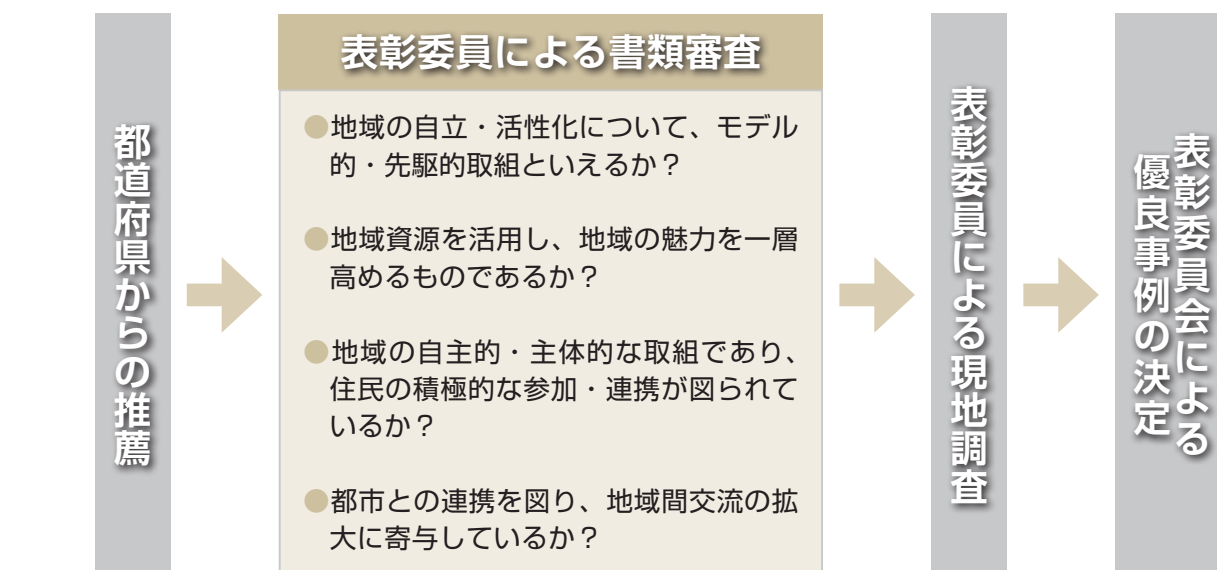
GOTO☆ワンハート
言葉や文化の垣根を越えて、心を一つに!
～みんな違ってみんな良い～

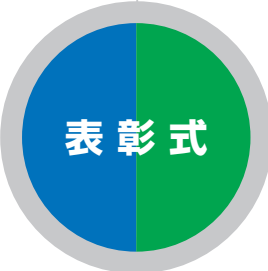
過疎地域自立活性化 優良事例表彰制度の概要

今日、多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあります。しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信の発達、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

こうした中で、過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興等を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与することが期待されています。

このことから、本制度は、過疎地域の自立促進に資するため、地域の自立と風格の醸成を目指し、創意工夫により過疎地域の活性化が図られている優良事例について表彰を行うものです。





表彰式

日時：令和元年 10 月 31 日（木）13 時 20 分

場所：リンクモア平安閣市民ホール
(全国過疎問題シンポジウム全体会会場)
青森県青森市柳川 1 丁目 2-14

令和元年度表彰委員会委員（敬称略）



委員長 みやぐち とし みち
宮口 侗迪
早稲田大学名誉教授



委員 あき た のり こ
秋田 典子
千葉大学大学院園芸学研究科
准教授



委員 す し なお や
関司 直也
法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科教授



委員 たに たか のり
谷 隆徳
(株)日本経済新聞社
編集委員



委員 ひら お ゆ き
平尾 由希
株式会社FOODSNOW代表取締役
フードコーディネーター

委員長講評

宮口 侗迪

この優良事例表彰は平成2年に始まり、令和となった今年で30回目となりました。例年のように委員の現地視察を踏まえて、今年度は総務大臣賞4団体、過疎連盟会長賞5団体を選定させていただきました。

総務大臣賞には、地域の方々が組合をつくり地域資源の価値を素晴らしく高められた事例が二つあります。青森県大鰐町の「プロジェクトおおわに事業協同組合」は、町おこしグループ「OH!! 鰐元気隊」を中心に、名物の大鰐温泉もやしの施設整備や日帰り温泉交流センターの経営立て直しに成果を上げられましたし、静岡県松崎町の「企業組合であい村蔵ら」は、高齢の女性リーダーのもと、築150年の蔵で、手づくりの民芸品に小物とランチの店を立ち上げ、オンリーワンの商品で町内外の結節点の役割を果たされています。続いて和歌山県かつらぎ町の「天野の里づくりの会」は、穏やかな農村風景に惹かれての移住者を含む住民の多くが会員で、高野山町石道の管理や都市の企業の体験交流の受け入れを続け、旧校舎の宿泊施設、直売施設、未就学児の母の会などに会員が重なる、農村本来の重層的なしくみを構築されました。また、鹿児島県枕崎市の「NPO 法人自然花」は、様々な立場の子どもへの農村での支援活動に意義を見出した児童養護施設関係者が、子供のいなかった過疎の集落に場を得て、集落と一体化した素晴らしい活動を展開されています。外部の人によって場が活用された素晴らしい事例と考えます。

過疎連盟会長賞には、不振だった地域の施設の活性化に成功した事例が二つあります。青森県むつ市の「わきのさわ温泉湯好会」は、復活した公設の温泉施設の清掃などのサポートや、小中学生の風呂絵、果物や野菜の栽培、惣菜の販売などで、温泉をにぎわいと交流の場にすることに成功されました。また、奈良県黒滝村の「(株)黒滝森物語村」は、不振の公設の宿泊施設の経営体制を一新して利益率を上げて施設の価値を高めるとともに、高齢者の貴重な職場として、また移動販売も実施して地域に大きく貢献されています。交通に関わる事例も二つあります。北海道夕張市は、中学と高校がある拠点地区の「バスまちスポット」施設を高校生の設計提案でつくり、タブレットによる平日最終と休日の部活便の予約システムを考案、合理的な配車で経費の節減が実現されました。また、奈良県五條市の「NPO 法人五新線再生推進会議」は、未整備に終わった五新線（五條―新宮）に小型SLをと結成されたNPOで、おもちゃの列車のイベントや「全国未成線サミット」の開催などで注目を浴び、トンネルでのシイタケ栽培などが派生しています。そして島根県江津市の「GOTO ☆ワンハート」は日本語ボランティアの有志の会で、外国人技能実習生に対し、日本語教室、イベントでの出身国料理のブース設定、浴衣の着付けでの住民との接点づくりなど、江津市を第2の故郷としてもらう活動が評価されました。

今年度も表彰団体は多彩な顔ぶれになりました。地域が本来的に持っているものの価値をいかに高めていくかが、過疎地域活性化のための活動の基本的姿勢だと思いますが、それが外部の人とのかかわりによって実現することも多いことを実感しました。また外国人とのかかわり方も新しいテーマだと思います。ぜひ地域を違った視点で見つめ直すことの価値を忘れないでいただきたいと思います。申し上げ、講評とさせていただきます。

プロジェクトおおわに事業協同組合 “人生を賭けて！” ～目指せ！日本の田舎町再生のお手本づくり!!～



毎年秋に、東京のアンテナショップで子ども達自らが生産した野菜を販売。未来ある子ども達一人ひとりが輝くことで町全体が輝くと考え、取組を継続している。

● 事例の概要

大鰐町は、人口減少や少子高齢化が進み、基幹産業である観光や農業も停滞する中、有志が地域に元気を取り戻そうと、平成19年に現在の組織の前身となる「OH!! 鰐 元気隊」を発足した。

町に伝わる伝承野菜「大鰐温泉もやし」の生産者育成や、「大鰐高原野菜」を含めた地域の特産品の販促活動を通して、町の魅力をPRし、集客を図っている。また、地域活性化と交流人口の拡大を図るため、町内の宿泊施設等と連携し、新たなイベントやアクティビティの開発にも取り組んでいる。

子ども達の体験学習というだけでなく、「故郷に自信と誇りを持つことで町を元気に」という町全体の意識を下支えする活動にも繋がっている。また、大鰐温泉もやしを核とした地域産品のブランド化を図るとともに、農業従事者の収入増加や加工品の開発等を手がけることで新たな雇用を創出するなど、地域活力の底上げにも貢献している。



フォトゲイニング大会(観光型スポーツイベント)の参加者。

● 評価のポイント

青森県津軽地方の最南端に位置し、温泉とスキーの観光の街として繁栄した大鰐町は、バブル崩壊と共に観光客が激減し、リゾート開発に失敗、町は多額の負債を抱えて深刻な財政難に陥った。

人口減少や高齢化の進行、農業の衰退と、町が疲弊していく中、有志の住民で発足した町おこしグループ「OH!! 鰐 元気隊」は、かつての賑わいを自分達の手で取り戻そうと、温泉や大鰐温泉もやしなどの地域産品のブランド化など種々の取組を通して田舎町の再生に乗り出した。

町の歴史や美しさを教えながら町内の子ども達と一緒に清掃活動において、「大人は町の悪口を絶対に言わない」と徹底されたルールは、未来を担う子どもたちの町への希望と愛着を醸成し、かつて「この町はもうダメだ。町を出て進学・就職をしろ」という会話が当たり前だった、大人の日常での意識さえも変えた。

約400年前から温泉熱と温泉水を利用した一子相伝の土耕栽培で作られ、後継者不足に悩んでいた「大鰐温泉もやし」は、町や組合との協働の取組により栽培施設を設置し、もやし農家を目指す若手生産者の自立をサポートしている。大鰐温泉もやしはマスコミにも頻繁に取り上げられ、引く手数多になった今でも、「大鰐町に来て食べてもらう」ことを大切にするため、7割は地元に残し、3割を首都圏などで販売して町への集客を図るなど、他の地域も参考にすべきブランド化の成功事例となっている。

また、元気隊の有志メンバーは、会社を組織し、日帰り温泉施設を備えた地域交流センター「鰐 come」の指定管理者となり、スタッフの意識改革と県内企業との種々の連携企画などで赤字経営を立て直した。充実した産直コーナーのほか、飲食処には大鰐温泉もやしのメニューも豊富で、同施設は平日にも関わらず多くの人で賑わっている。

大鰐町には「人生を賭けて」と言い切って、まちづくりと人づくりに取り組んでいる人達がいる。自分達の町だけではなく、同じ悩みを抱えた地域のお手本になろうという高い志を持って行う種々の取組を高く評価したい。



5月～9月まで毎月1回、元気隊キッズとともに町内の清掃活動を行っており、清掃終了後は鰐 come 朝礼(365日開催)に参加してもらう。



大鰐温泉もやし収穫シーズン開幕に合わせ、「大鰐温泉もやしフェスタ」を開催。もやし即売会の他、地元飲食店と連携し、フェスタ限定のもやし料理を提供するなど、毎年好評のイベント。



ホスピタリティ世界を目指し、年に5～6回、社員のスキルアップとして、さまざまな業界の著名な方々を講師に迎え、勉強会を開催している。

Data

青森県 大鰐町 (おおわにまち)

団体名 ▶ プロジェクトおおわに事業協同組合

所在地 ▶ 〒038-0211 青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字川辺11-11

連絡先 ▶ TEL:0172-49-1126 FAX:0172-47-5166

E-mail: wanicome@gmail.com

URL: http://www.wanicome.com/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 東北自動車道 大鰐弘前ICより車で10分

鉄 道 ▶ JR奥羽本線 大鰐温泉駅より徒歩1分

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
大鰐町	18,777	16,312	12,881	11,918	10,978	9,676

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
大鰐町	-48.5	-40.7	-24.9	-18.8	-11.9



(単位:人)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
大鰐町	38.8	13.8

(単位:%)

企業組合であい村蔵ら

夢の華咲かせます！
～人も町も元気もりもりプロジェクト～



企業組合 であい村 蔵らのメンバー。これまでの人生において培った経験や特技を強みとして生かし、各メンバーが得意な分野で活躍している。

● 事例の概要

企業組合であい村「蔵ら」は、郷土の偉人にゆかりのある古民家を活用して高齢者の憩いの居場所を創出することを主な目的に、地域住民が出資をして企業組合を組織し、活動を開始した。

松崎町は、かつて農林業や漁業が盛んであり、伝統的に自分達が使用する道具は自分たちで作るという風土がある。こうした風土を土台にして、「蔵ら」でしか食べられない地元食材を使った健康的なランチや、「蔵ら」に來なければ買えない商品を多く開発している。こうした活動の結果、「蔵ら」のファンが増加したことで経営の安定化に繋がるとともに、松崎町への観光客の増加にも貢献している。また、手芸といった高齢者が持つ経験や特技を生かして活躍する機会を提供することで、高齢者の生きがいづくりに寄与しているほか、クラウドファンディングを活用して新たな特産品の開発にも取り組んでいる。



料理自慢のメンバーが腕を振るう地元食材を使った観光客にも人気のワンコイン昼膳。

● 評価のポイント

「蔵ら」は、高齢になった女性たちが生きがいを持って活動できる働き場所として、また、町内外の様々な人たちが集う居場所としても機能している。その運営には、当時過疎地域ではまだ珍しかったワーカーズ・コレクティブ方式を採用し、地域住民が共同出資し、収入から経費を差し引いた残りを給料として分配する対等な働き方が目指されている。

「蔵ら」のような女性活動グループの活動は他地域にも散見されるところだが、この取り組みに見出される突き抜けた特徴を3点挙げておきたい。

1点目は、今のように介護保険制度や地域包括ケアがまだ浸透していない2000年前後の時期に、「ものづくり介護」「働くデイサービス」「国から年金をもらって、町に恩返しを」というフレーズを掲げて、高齢女性たちと「蔵ら」の立ち上げに導いた先見性である。

2点目は、単なる趣味のレベルに留めず、活動が継続するよう、自分達の時給を500円にまで上げていくという目標を明確にして（現在は340円）、喜ばれるデザインや買いやすい値付けを心掛け、売れるものを作るよう心掛ける経営センスである。

これは絶えず新たな分野を開拓する意欲にもつながり、小石にイラストを貼ってデコパージュした「いづこいし」、着物を縫う技術を生かしたパービー人形用の和服のリメイクなど、身近な素材をメンバーの特技と掛け合わせて身近な素材をメンバーの特技と掛け合わせてオンリーワンの新たな商品を次々と生み出し、近年では、それを目指して「蔵ら」を訪れる客やインバウンドの外国人観光客にも訴求する品揃えになっている。

3点目は、「蔵ら」が町内外の結節点としての役割を次第に担うようになった点である。「蔵ら」の活動は食材や素材の提供をはじめ、町内の多くのつながりに支えられ、今日では、移住者や地域おこし協力隊、地元の高校生と交えた活動も生まれ、「蔵ら」の誘因力を生かして町の関係人口を広げていく挑戦も始まっている。

活動に携わる女性たちの世代交代も進む中、「蔵ら」での仲間との実践から育まれてきた「蔵らイズム」は着実に町内外に浸透しつつあり、それが松崎の誇りの元となる新たな「地域遺伝子」となって次世代につながっていくことを大いに期待したい。



古民家を改装した店内には和裁や手芸を得意とするメンバーの作品が多く並び、作品の販売もしており、県内で人気のケーキ屋等でも使用されている。



高校生や高齢者、観光客と一緒に「いづこいし」等の小物づくりを体験するワークショップを実施。多様な主体の交流が生まれている。



クラウドファンディングを活用し、新たな特産菓子を開発。あんには特産品の桜葉や桑葉を使用し、養蚕で栄えた町の歴史から「繭最中（まゆもなか）」と命名。

Data

静岡県 松崎町 (まつざきちょう)

団体名 ▶ 企業組合 であい村 蔵ら

所在地 ▶ 〒410-3611 静岡県賀茂郡松崎町松崎319-1

連絡先 ▶ TEL:0558-42-0100 FAX:0558-42-0100

【交通のご案内】

自動車 ▶ 東名高速道路沼津IC／新東名高速道路長泉沼津ICより1時間40分

鉄道 ▶ 東海道新幹線を利用

三島駅から修善寺駅(伊豆箱根鉄道駿豆線)で35分

修善寺駅からバスで1時間40分

伊豆急行線を利用

伊豆急下田駅からバスで50分

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
松崎町	12,183	10,013	8,515	8,104	7,653	6,837

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
松崎町	-43.9	-31.7	-19.7	-15.6	-10.7



(単位：人)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
松崎町	43.2	9.2

(単位：%)

あまのさとかい
天野の里づくりの会

神話の里“天野”のむらおこし



伊藤忠商事株式会社と「企業のふるさと」の協定を結び、10年間交流を続ける。ブランド米である「天野米」の田植えや収穫体験のほか、地域保全活動にも共に取り組んでいる。

● 事例の概要

会が活動する天野地域は、高野山のふもとと山あいの盆地に位置し、田園風景が美しい山里である。また、地域には世界遺産の「丹生都比売（にうつひめ）神社」や高野山への参詣道「町石道（ちょういしみち）」がある。

会では、地域の景観を維持する活動や、放置竹林対策を兼ね、竹を活用した土壌改良材や竹パウダーのぬか床などの商品開発、伝統芸能「御田祭（おんだまつり）」の継承、企業や大学との交流による地域づくりなどの活動を行っている。また、移住者の受入にも丁寧に取り組み、今や全世帯の約3割が移住者となっている。

移住者が地域に溶け込めるよう、会の役員や活動主体を移住者が担っているほか、企業や学生などの力も上手に活用しているところが特徴的である。

会が結成されたのは平成18年。平成16年に当地域を含むエリアが「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録され、地域を訪れる人が急増したことをきっかけに活動を開始し、多様な主体が一体となり継続的に取組が行われている。



世界遺産「丹生都比売神社」
空海が高野山の地を授けた神を祀っている。

● 評価のポイント

魅力的で明るい農村「天野の里」をつくるため、旧小学校区で平成18年に「里づくりの会」を結成した。当初は正会員22名とサポート会員7名でスタートしたが、現在は正会員が60名、サポート会員も44名に育っている。

会員は当番制で、世界遺産の高野山町石道の見回りと保全活動を実施し、倒木等があった場合は、行政からの有償委託で倒木の処理も行う。また照明専門の会員が手掛けて、丹生都比売神社の楼門・太鼓橋のライトアップも始まった。日本の里100選をきっかけにウォーキングコースの整備を行い、都市の企業と連携して農作業体験のサポートや、手打ちそば体験のイベントを開催し、近年では竹パウダーのぬか床や干し芋などの商品開発などにも取り組んできた。

約100世帯の山間の農村集落で、10年を超える地域活動を持続し、移住者との良好な関係を構築する中で会員の数も増え、近年、活動がさらにパワーアップしていることは大きく評価できる。また、会の発足に当たって、世界遺産の神社に加えて、美しい農村風景を守ることが眼目となっていることも評価したい。天野の美しく穏やかな風景に惹かれての移住世帯は3割近くになった。会員の作業については、時間給500円と取り決めることで、やりがいの創出を図っている。干し芋やぬか床の収入は一人数万円程度にすぎないが、移住者を含めて、和気あいあいとした作業の雰囲気好ましく感じられた。さらに、未就学児の母の会や小中学生の保護者の会、直売所の運営委員会、旧校舎の宿泊施設の管理など、多くの会で会員が重なり、安心して暮らせる場として地区の一体感は強い。人が重層的に支え合うわが国の農村集落の本来的な価値を、時代に合わせてさらに育てている点で出色であると高く評価したい。



放置竹林の竹を活用した「天の竹 楽チンぬか床」を商品開発。竹の繊維により保水性・通気性が良く、豊富な乳酸菌が雑菌の繁殖も抑える。野菜本来のおいしさを味わえると人気。



世界遺産 高野参詣道「町石道」の保全活動の様子。多くの観光客が歩くこの道を保全するため月1回の見回りを実施し、倒木処理等の維持管理を行っている。



地域の文化史跡や里山の美しい景観を目的に訪れる観光客に対し、「語り部活動」を実施。

Data

和歌山県 かつらぎ町

団体名 ▶ 天野の里づくりの会
所在地 ▶ 〒649-7142 和歌山県伊都郡かつらぎ町下天野1072番地
連絡先 ▶ TEL:090-4906-0693 FAX:0736-26-0172
E-mail: chiaki55@maia.eonet.ne.jp
URL: http://www.katuragi.or.jp/amano_satodukuri/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 京奈和自動車道 かつらぎ西ICより約20分
阪和自動車道 岸和田和泉ICより約45分
鉄 道 ▶ 南海高野線を利用
難波から橋本まで約50分
JR和歌山線を利用
橋本から笠田まで約20分
笠田からコミュニティバスで約25分
飛行機 ▶ 関西国際空港から車で約1時間

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
かつらぎ町	26,411	23,896	20,945	19,670	18,230	16,992

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
かつらぎ町	-35.7	-28.9	-18.9	-13.6	-6.8



(単位：人)

● 高齢者・若年者比率(H27年) (単位：%)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
かつらぎ町	36.8	10.6

特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花

「こどもの声は地域のチカラ！」
～山間部の過疎集落における子育て支援～



活動拠点のツリーハウス広場には、年間多くの親子が訪れ、体験活動を行っている。

● 事例の概要

昔ながらの生活が今も残っている木口屋集落で、親子が一緒に様々な体験活動ができるように、平成21年に「NPO 法人自然花」を設立した。活動を開始した当初は、法人職員のみで活動だったが、木口屋集落の住民との連携が生まれ、さらに学生ボランティアや行政と連携することで多彩な活動を行うことができるようになった結果、事業の継続性に繋がっている。

また、親子自然ふれあい体験や子育てサロン等の事業を進める中で、昔ながらの暮らしには高齢者の経験が不可欠と考え、餅つきやそば打ちなどのイベントの際に、高齢者を講師として迎え入れることで、高齢者の生きがいづくり等に寄与しているほか、集落住民が運営側として体験活動に参加することにより、集落内の活性化にも繋がっている。



法人立ち上げ時のスタッフ。集落の方々に温かく受け入れてもらった。

● 評価のポイント

NPO 法人子育てふれあいグループ自然花（じねんか）は、農村集落の中に拠点を置き、子ども達のためにと共感してくれる集落住民の経験を借りながら、様々な立場に置かれた子や、その親も受け入れて、暮らしの中で家族それぞれの役割を構築できる場づくりを10年にわたり展開してきた。

自然花のスタッフは、もともと南さつま市の児童養護施設に勤務し、親元を離れた子ども達をケアしながら社会復帰に向けた支援活動も、コミュニケーションがうまく取れず家庭に戻れなかったり、仕事に就けないケースに直面していた。そこで昔の家族には、暮らしの中に親子が互いの役割を認め合い家族を構築していくプロセスがあり、それが田舎にまだ残っているのではないかと、有志で準備を進める中で、木口屋集落の空き家を紹介してもらい、スタッフの手で改築して、2009年に自然花を立ち上げた。

最初は、自然体験や農業体験を通して親子で共感できる「親子自然ふれあい体験」から少しずつ受け入れを始めた。その中で、子どもが20年近くいなかった木口屋集落に、元気な声が響くようになると、次第に集落の人たちが自然花に野菜を持ってきたり、体験と一緒に手伝ったり、空き地を造成して遊具を作ってくれたり、様々な交流が生まれてきた。近年では集落を離れた他出者や縁戚者も、活動の様子をWebで見、集落の草刈りにも顔を出すなど、Uターン者も少しずつ出始めている。また、自然花が空き家を改修し、民泊もできる「陽だまりの家」は、市も移住希望者向けのお試し住宅として借り上げを始めるなど、地域の暮らしに触れるコーディネーターとしての役割にも期待を寄せている。

今や、自然花の存在は行政にとっても「無くなると困る存在」となっている。自然花のように、学童の子も、不登校の子も、家庭不和の中にある子も、待機児童になっている子も、専門的知識を持って受け入れられる場所は他になく、様々な事業を通じた貴重な連携先となっている。自然花の取り組みは、過疎地域にあっても潜在化してしまう親子関係や子育て環境の諸問題に対して、集落住民の寛容さを交えながら、社会的包摂の場づくりを目指す試金石とも言え、過疎地域におけるウェルビーイングの実現に向けた貴重な実践と高く評価したい。



周りには、自然豊かなフィールド。夏の川遊びには手長エビ（ダンマ）や山太郎ガニも捕まえる。冬は、カスラの山でカスラ遊び。子どもだけでなく、大人も童心に戻る。



毎年恒例のそうめん流し。集落内の竹を切り出し、レーンや器を作っている。婦人部直伝の手作りめんつゆは、おいしいと好評。



集落の高齢者が講師となり、ふくれ菓子作り。空き家を改修した「ひだまりの家」の食育体験は、よもぎ団子作りや味噌作り等も行っている。

Data

鹿児島県 枕崎市 (まくらざきし)

団体名 ▶ 特定非営利法人子育てふれあいグループ自然花
所在地 ▶ 〒898-0071 鹿児島県枕崎市美山町33番地
連絡先 ▶ TEL:0993-58-1888 FAX:0993-58-1888
E-mail: jinenka@chorus.ocn.ne.jp
URL: http://jinenka.jp/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 九州自動車道 鹿児島IC(南薩縦貫道利用))より約1時間
鹿児島市(国道225号利用)より約70分
指宿市(国道226号利用)より約70分
南九州市知覧町(県道34号利用)より約20分
南さつま市加世田(国道270号利用)より約20分
鉄道 ▶ JR指宿枕崎線 鹿児島中央駅より約2時間30分

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
枕崎市	33,511	30,060	26,317	25,150	23,638	22,046

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
枕崎市	-34.2	-26.7	-16.2	-12.3	-6.7



(単位：人)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
枕崎市	36.3	10.9

(単位：%)



地元高校生と共に創る地域交通の未来



家庭科の授業風景。計7時間の授業を経て、施設の機能や空間デザイン案を策定。

● 事例の概要

夕張市では、JR石勝線夕張支線の廃線を受けて、地域のバス事業者の運転手不足が深刻となったことから、交通体系の抜本的な見直しを進めていた。その中で、地元の高校生の意見も踏まえながら、公共交通の乗り換えの仮設拠点である「バスまちスポット」の整備や部活便スクールバスの非効率な運行を是正するためのタブレット予約システムの導入等の取組を行っている。

部活便スクールバスでは、タブレット端末を使用した予約システムを導入し、乗車する生徒自らが予約し、運行事業者も予約に応じた配車とすることで、運行の適正化に成功している。

現在、システムは順調に稼働し、生徒が予約システムを活用することによって地域交通を守る取組が続いており、平成30年度には、年間約130万円の運行コスト節減を達成するなど着実に成果を上げている。



「バスまちスポット」。本施設の企画に当たっては、北海道夕張高等学校と協働し、空間デザイン等について同校生徒の参画を受けた。

● 評価のポイント

夕張市はかつて炭鉱で繁栄したが、廃坑となる中で観光施設への過大投資と炭鉱住宅の公営住宅への移管等の負の遺産で財政破綻し、平成18年度に財政再建団体となる。最近では、JR石勝線夕張支線の廃止の動きの中で、交通結節点機能を持つ都市拠点の整備が進行中であり、市の夕張高校魅力化プロジェクトの一環として、高校生と共に地域交通を考える取組を平成29年度にスタートさせた。

鉄道とバスの一部路線廃止の流れの中、市は市民の交通輸送体系の改善を進めつつあり、今年度には市が都市拠点エリアと位置付ける南清水沢地区に複合拠点施設が完成する予定である。この地区には中学と高校があり、遠距離の生徒はすべてスクールバスで通学している。さらに一部地区でデマンドバスの運行も始まっており、交通結節点としてのこの地区の重要性が増す中、市の職員が、複合拠点施設の完成までのバスターミナルとしての「バスまちスポット」の設計に、実際に利用する高校生に参加してもらうことを発案した。これには3年生が家庭科の授業の中でグループ討議を行い、いくつかのタイプをプレゼンし、その一つが採用され、現に使われている。

さらに担当者は、乗車人数が不安定な平日最終と休日の部活便について、タブレットによる予約で乗車人数に応じた運行が可能になるシステムの構築を発案し、平成29年7月に高校生によるモニター実験を行い、翌年2月から本格運用している。予約が4人以内だとタクシー車による運行もある。小型車両の活用が可能になったことから、その後の1年間で約130万円の経費が削減され、冬の平日に部活便が増便されるというすばらしい成果が上がっている。

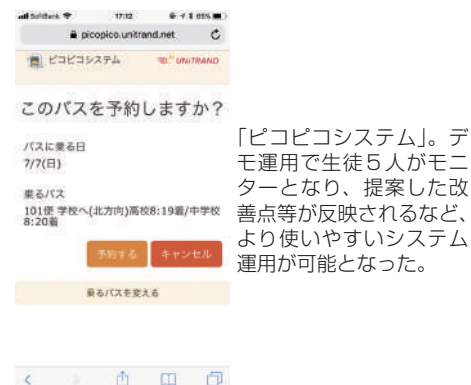
朝のデマンド利用もスクールバスに便乗するなど、厳しい財政にもかかわらず交通輸送体系の改善は進んでおり、高校生とのユニークなコラボによる成果は高く評価できる。



スクールバス平日部活便の運行。この日は予約人数が2人のため、小型のタクシー車両で無駄なく運行することができた。



バスまちスポット内部の様子。高校生が、「公共性」を念頭に置きながら検討した施設機能や備品及びその配置案を、ほぼそのまま反映した。



Data

北海道 夕張市 (ゆうばりし)

団体名 ▶ 北海道夕張市
所在地 ▶ 〒068-0492 北海道夕張市本町4丁目2番地
連絡先 ▶ TEL:0123-52-3141 FAX:0123-52-1054
E-mail: ybrkai@city.yubari.lg.jp
URL: http://www.city.yubari.lg.jp/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 札幌から
道東自動車道(夕張IC下車)を利用し約80分
道道3号線を利用し約90分
新千歳空港から
道央自動車道、道東自動車道(夕張IC下車)を利用し約50分
鉄 道 ▶ JR石勝線「新夕張駅」下車後、バスで約40分
飛行機 ▶ JR千歳線「新千歳空港駅」から「南千歳駅」で乗換え、JR石勝線「新夕張駅」下車後、バスで約40分

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
夕張市	116,908	41,715	14,791	13,001	10,922	8,843

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
夕張市	-92.4	-78.8	-40.2	-32.0	-19.0



● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
夕張市	48.6	7.3

わきのさわ温泉湯好会

コミュニティセンターを核にした小さな拠点による
脇野沢創生プロジェクト～センターだヨ！全員集合～

ワークショップを積み重ね、試行錯誤を繰り返し、完成した地域住民待望のコミュニティセンター脇野沢温泉。

● 事例の概要

むつ市脇野沢地区は、10年間で約3分の1の人口減となっている状況であった。こうした状況を打開し地域の活性化を図るため、故障により休館となっていた温泉施設を改修し、そこを地域の賑わいの拠点とするための方策について検討を始めたことが活動のきっかけとなった。

施設完成後は、市が任用する集落支援員と協働で地域住民自らが施設を運営し、今では隣接するガラスハウスで栽培した野菜等を使ったスムージーやハーブティーのほか、地域婦人会やパン作りサークル等の協力を得て、来館者に軽食等を提供している。また、体験講座やイベントの企画・運営も実施しており、地元産品を活用した料理教室、ヨガ、そば打ち、木工、下北ジオパーク関連講座等を開催するなど、地域住民が主体となって地域の活性化に取り組んでいる。

地域住民が主体となった運営組織と拠点となる施設ができたことによって、地域を元気にするための活動を幅広く展開できる態勢となっている。



むつ高等技術専門学校と連携してヒバティッシュケースづくり講座を開催。

● 評価のポイント

青森県下北半島の西南に位置する、むつ市脇野沢地区は、平成30年10月1日時点の人口1,510人のうちの過半数が65歳以上であり、むつ市の中でも特に人口減少率と高齢化率の高い地域となっている。

少子高齢化と過疎化が進む中、市町村合併以前の旧脇野沢村の時代から、地域住民の憩いの場であった「脇野沢温泉」は、源泉の枯渇や設備の故障によって休業状態となり、地域コミュニティの活力低下や、地域への愛着の薄れなども同地区にとつての課題となっていた。

そこで、地域の将来に危機感を持った住民が改修された「脇野沢温泉」を「コミュニティセンター」として立て直しを図ることとした。その取組にインターンシップの大学生なども加わり、温泉再開に向けて住民の意向を反映させるために開かれた、1年間で16回にわたるワークショップを経て、同温泉を復活させた。

温泉の復活を機に、ワークショップに参加した住民を中心に結成された「わきのさわ温泉湯好会」が集落支援員と協働し、温泉の運営をサポートしながら、住み慣れた地域で稼ぎ、暮らし続けていける新たな仕組みを構築して、地域を盛り上げるための様々な活動を行なっている。

温泉や施設周辺の清掃はもとより、環境美化活動も住民自らが行うとともに、定例会の開催により、利用客の意見や要望を共有し、改善策を検討する「住民の声が形になる温泉」として、さらなる魅力化に努めている。また、湯好会の会員の半数が認知症サポーター養成講座を受け、同温泉が認知症サポート団体に認定されるなど、会員の非常に勉強熱心で、地域の未来を見据えた学ぶ姿勢も素晴らしい。

温泉湯好会の取組は、地域資源を活かして地域住民が一体となって拠点を作り上げていくことで、住民の地域への愛着を醸成し、温かな憩いの場を再生している点が高く評価できる。



ガラスハウスでの収穫の様。収穫した野菜等は温泉施設内で販売。



食品衛生に関する勉強会の模様。その他にも認知症サポーター養成講座などの研修会を受講。

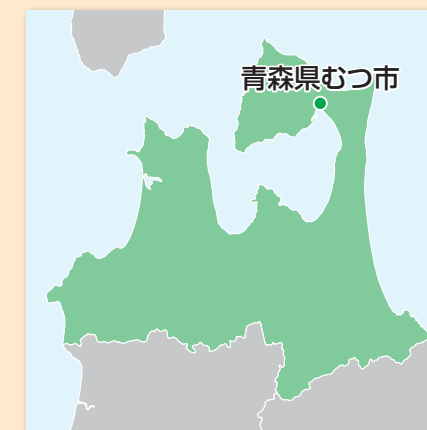


そば打ち講座。地元の特産品を使った商品開発と会員の技術力向上を目的に開催。

Data

青森県 むつ市

- 団体名 ▶ わきのさわ温泉湯好会
所在地 ▶ 〒035-8686 青森県むつ市脇野沢七引157番地2「むつ市コミュニティセンター脇野沢温泉」施設内
連絡先 ▶ TEL: 0175-33-2601
E-mail: w-onsen26@carrot.ocn.ne.jp
URL: https://www.facebook.com/wakinosawaonsen2601yukokai/
- 【交通のご案内】
自動車 ▶ 八戸自動車道 八戸ICより約2時間10分
みちのく有料自動車道 青森東ICより約1時間40分
鉄道 ▶ 青い森鉄道とJR大湊線を利用
青森駅から下北駅まで 約1時間50分
青い森鉄道とJR大湊線を利用
八戸駅から下北駅まで 約2時間



● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
むつ市	96,527	71,567	67,022	64,052	61,066	58,493

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
むつ市	-39.4	-18.3	-12.7	-8.7	-4.2

(単位: 人)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
むつ市	29.8	11.7

(単位: %)

NPO法人五新線再生推進会議

歴史遺産「幻の五新線」と、南朝を核とした
産官学連携による奈良県南部地域の活性化



五新線路盤を使って行なわれる「木レールイベント」は、今年で7回目を迎え、来場者数 1,000 人を越える地域の一大イベントとして定着。会場には地元商店主らによる露店市も立ち、地域住民を巻き込んだエリアの活性化につながっている。

● 事例の概要

一度も利用されないまま未完成で終わった「幻の五新線跡」に小型 SL を走らせようと、大学の研究者等が設けたグループによる活動が発端となっており、これまでに玩具列車（プラレール車両など）を走らせるイベントや、「全国未成線サミット」等を開催している。

また、五新線には建設以降全く使用されていないトンネルが複数あることから、これを利用して、かつて地元の特産品であった椎茸の通年栽培を開始したところ、地域の雇用創出に寄与したところであり、今後は、「幻の五新線ブランド椎茸」として、年間 300^トの生産を目指している。

一連の活動を通じて、地域内外の多様な人材や団体を巻き込み、「負の歴史遺産」と呼ばれていた五新線鉄道遺構に新しい価値を持たせることに成功している。



全国から6つの未成線関係団体が五條市に集まり、各団体の取組の発表を通して、現状や今後の夢を語った。

● 評価のポイント

五新線とは、吉野杉などを輸送する目的で奈良県五條市と和歌山県新宮市を結ぶ鉄道として戦前に着工されたものの、橋梁やトンネル、路面などを一部整備するだけで中止された「未成線」である。今回、審査対象となる NPO 法人は、幻の五新線に小型 SL を走らせようという夢に賛同した大学の研究者や企業人らが設けたグループで、2015 年に NPO 法人化された。かつてバス専用道などとして使われていた路面に木製レールを整備して、おもちゃの列車を走らせるイベントを 2014 年以降毎年実施し、昨年は五條市以外からも含めて 1,200 人を集めた。五新線と同じく未完で終わった鉄道路線は全国に 80 程度あるが、そうした地域と連携して「全国未成線サミット」なども開催している。

NPO 理事長で奈良先端大学名誉教授の新名氏をはじめ、理事には市外在住の鉄道ファンが名を連ねるが、活動を重ねるにつれて地元住民も参加し、活動内容も多彩になっている。その代表例は、放置されていた長さ 500 メートルを超えるトンネルを使ったシイタケの栽培事業で、地元の農事組合法人が 2017 年秋から本格的に地域の特産品として販売を始めた。五新線の跡地で自生するアカネを発見し、遊休農地で栽培する事業も地元の団体が主導しており、かつて五條で商われていたアカネ染めの復活を目指している。また、木質バイオマスの地産地消事業や古民家カフェの整備、NPO の関係者らが手弁当で自分の専門分野について市民に講演する講座なども継続的に開いている。

一連の事業の発端は、「五新線に SL を」というプロジェクトに賛同して集まった人々が多彩な経歴を持つ点に気づいた五條市の職員が、地域の活性化に協力してもらおうと組織化を働きかけたことに始まっている。メンバーが全体的に高齢なうえ、資金調達の面で課題もあるが、「よそ者」の力を取り込んで地域の資源を再発見し、活性化につなげる好事例といえる。



一般的な椎茸栽培では経費の約 40%が温度と湿度の管理に費やされるが、トンネルは、年間を通じて気温、湿度が安定しており、大幅なコスト削減が図られる。



地域の高校生や市民を対象に、学ぶことの楽しさを知ってもらうことを目的に、現役教授や第一線で活躍する企業人を講師に招き、市民講座を定期開催している。



1,000 mに及ぶ木のレールを未成線路盤に敷設。持参した鉄道玩具を自由に走らせるイベント「木レールイベント」には地域内外から 1,000 人を越える来場者が集う。

Data

奈良県 五條市 (ごじょうし)

団体名 ▶ NPO法人五新線再生推進会議
所在地 ▶ 〒637-0029 奈良県五條市山田町491-1
連絡先 ▶ TEL:090-3990-7951(新名 惇彦)
E-mail: goshin-sen@gojo.ne.jp
URL: http://www.gojo.ne.jp/goshin-sen/

【交通のご案内】

自動車 ▶ 大阪から車で約 1 時間(京奈和自動車道 五條ICを降りる)
京都から車で約 1 時間(京奈和自動車道 五條ICを降りる)
鉄 道 ▶ 大阪駅から五条駅まで乗車時間約 2 時間
関西国際空港から五条駅まで乗車時間約 2 時間30分
京都駅から五条駅まで乗車時間約 2 時間

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
五條市	43,489	40,089	39,928	37,375	34,460	30,997

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
五條市	-28.7	-22.7	-22.4	-17.1	-10.0



(単位: 人)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
五條市	34.0	9.7

(単位: %)

株式会社黒滝森物語村

地域が誇る企業「株式会社黒滝森物語村」の 地方創生プロジェクト



中心施設である森の交流館（ホテル）。経営改善の結果、売上は施設閉鎖直前期から 23 倍に上昇し、現在は地域の観光拠点となっている。

● 事例の概要

住民・村議会・村行政が一体となって過疎化が進む黒滝村の未来を切り開く仕組みづくりの一つとして「株式会社 黒滝森物語村」は2011年3月に設立された。黒滝村の観光施設の管理運営を一手に引き受けていたが、初年度から観光客数の落ち込みに伴う厳しい経営が続き、2015年には宿泊施設及び入湯施設の閉鎖に追い込まれた。

宿泊施設の閉鎖は1年間続いたが、その間に経営体制を一新し、翌年から宿泊施設のリニューアルオープン、コンビニエンスストアの出店、入湯施設のリニューアルオープンを次々に成功させ、不振時の3倍にまで売上全体額を向上させることができた。株式会社黒滝森物語村の創設には、100名を超える多くの村民及び村関係者が出資協力しており、村民の理解や多くの協力が経営改善につながっている。

「地域の課題は地域で解決する」をコンセプトに、元気な地元高齢者の積極採用や、中山間地で利益が見込めない高齢者向けの食料日用品の移動販売等の過疎問題に対して積極的に取り組み、スポーツ振興等による地域の健康づくりを支えながら、地域全体の活力の底上げにつなげ、地方創生を一手に担う企業へと成長している。



河川敷でのディキャンプも人気。大水害による河川の荒廃から、清流を取り戻しつつある。

● 評価のポイント

黒滝村は奈良県の中心部に位置する林業を主力とする人口 660 人の村である。「株式会社黒滝森物語村」は、村が 2011 年に設立した第 3 セクターで、温泉・宿泊施設やアウトドア施設のほか、道の駅などを管理・運営している。

村が観光振興を狙って 1998 年に設けた宿泊施設は、長らく経営不振が続き、一時閉鎖に追い込まれたが、同社の経営体制を一新し、無料送迎の実施やネット予約サイトとの連携などを契機に経営が上向き、2016 年度以降、黒字に転換している。こうした第 3 セクターは、行政からの指定管理料収入に依存する 경우가少なくないが、同社の場合、指定管理料収入を売り上げから除いても利益率が上昇している。道の駅は黒滝村の入り口に位置し、年間 20 万人の利用があり、村も同社の経営を側面支援している。

同社の存在が村にとって重要なのは、観光客を呼び込むためだけではない。

同社は村内最大の事業所であるうえ、約 40 人（パートを含む）の社員の 7 割は 60 歳以上で、高齢者の貴重な勤め先になっている。また、交通弱者への対策として、道の駅では専用車両を購入し、食料品などの移動販売を実施している。同社主催でグランドゴルフ大会なども開き、多くの村民が参加している。移動販売などは赤字となっているが、同社は社会貢献活動として続けている。

黒滝森物語村の経営改革は評価に値するものであり、それを実現したのは現在の同社副社長（社長は村長）の存在が大きい。全国各地でホテル・旅館の運営に携わっていた人物で、村の依頼でＵターンし、同社の経営に参画した。一方で、これからも安定的な取組を継続していくためには同社を支えていく後継者の育成が課題になる。この課題を克服して、同社がもたらした大きな観光効果を、今後、村全体の活性化や定住促進につなげる試みに期待したい。



高齢者向けの食料・日用品の移動販売専用車。平日は毎日村内を巡回販売しながら高齢者への声かけも行う。売上も順調に向上している。



道の駅内にコンビニエンスストア（ヤマザキショップFC）を出店。観光客だけでなく地域住民にとっても食料・日用品の調達拠点となっている。



黒滝森物語村ホタル再生プロジェクト。8年前の紀伊半島大水害により荒廃した河川に毎年ホタルの餌を放流。今ではホタル観賞ツアーが大人気となっている。

Data

奈良県 黒滝村 (くろたきむら)

団体名▶株式会社黒滝森物語村
所在地▶〒638-0241 奈良県奈良県吉野郡黒滝村栗飯谷 1
連絡先▶TEL:0747-62-2770 FAX:0747-62-2772
URL: <https://www.morimonogatari.com/>

【交通のご案内】

自動車 ▶ お車でお越しの方
 国道309号線経由で橿原市より約60分、大淀町より約30分
 道の駅吉野路黒滝まで約9km(約15分)
 バスでお越しの方
 奈良交通バスで約50分。黒滝案内センター下車後約1km。
 黒滝森物語村から、きららの森まで約7Km(約15分)
 事前にお申込みいただきますと、黒滝案内センター迄送迎いたします。
 鉄 道 ▶ 近鉄阿倍野橋駅より近鉄吉野線下市口駅下車
 タクシーにて約20分(片道約15km)



● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
黒滝村	2,987	1,788	1,194	1,076	840	660

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
黒滝村	-77.9	-63.1	-44.7	-38.7	-21.4

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
黒滝村	49.4	5.0

GOTO☆ワンハート

言葉や文化の垣根を越えて、心を一つに！
～みんな違ってみんな良い～

毎年5月の連休に実施しているデイキャンプ。ベトナム人、フィリピン人、日本人、みんなの笑顔が一つになる。まさに「GOTO ☆ワンハート」な一日。

● 事例の概要

就業や結婚等で江津市に暮らすことになった外国人が「江津市に住んで良かった」と思えるように、日本語の習得支援や文化交流などの活動を展開する組織として「GOTO ☆ワンハート」を発足した。

言葉や文化の垣根を越えた人と人との心の触れ合いを信条とし、外国人の日本語の習得支援や料理を通じた地域住民との交流会等の開催のほか、通院などの生活支援や日常生活上のトラブル解決の仲介などにも取り組んでいる。

現在、江津市では、在住する外国人の受入れ体制の整備を進めているが、これまでの活動で蓄積されたノウハウ等が体制づくりに寄与している。また、過疎化で疲弊した地域のコミュニティ活動に若年世代の外国人を参加させることで、多文化共生社会の実現にも寄与している。



毎週日曜の日本語勉強会。読み書きの勉強だけでなく、ロールプレイやゲームで楽しく！

● 評価のポイント

島根県江津市は、人口回復のための様々な施策に先進的に取り組んできた意欲的な自治体であり、こうした成果が少しずつ結実し、現在、人口の社会減は回復傾向にある。このような過疎の地域を維持してゆくためには、外国人をいかに地域で受け止めるかということも重要なテーマになる。

GOTO ☆ワンハートは、2004年に島根県の日本語ボランティア養成講座受講生の有志により、江津市在住の外国人に日本語を教えるボランティアとして活動が始まった。しかし、年を経るごとに次第に参加者が減少し、2013年には事実上活動が休止状態になる。ところが、その翌年の2014年にベトナム人の技能実習生が日本語交流クラブの活動に参加するようになり、活動は新たな方向に展開してゆく。それは、外国人技能実習生が賃金を母国に送るためだけに日本で働くのではなく、地域を知り、住民と交流し、江津市を第二の故郷だと感じて自国に帰国できるように、彼らと地元を繋ぎ、温かく迎える場を積み上げてゆくことである。このため毎週日本語教室を開催するだけでなく、地元のイベントで出身国料理のブースを設けて直接住民と触れ合ったり、日本語教室のスタッフに地元の小学生が関わったり、外国人が地元の盆踊りに参加するために浴衣の着付けをしてくれた高齢者宅の除草をするなど、彼らが江津市民の暮らしの中に自然に溶け込むような様々な取組を行なっている。この結果、外国人技能実習生と地元住民の間には少しずつ信頼関係が生まれ、江津市において外国人を受け入れる文化が醸成されつつある。

一方で、運営スタッフの少なさが課題として挙げられる。この解決には、江津市の人口維持や自立のための多様な取組の地道な積み重ねが不可欠であり、特効薬はない。だからこそ、GOTO ☆ワンハートのような多様な取組が存在すること自体が過疎の地域においては極めて重要であり、当団体の温もり溢れるチャレンジは高く評価できるものである。



毎回、人気のベトナム料理交流会。料理を一緒にすることで言葉の垣根がなくなり心が一つに。母国の料理を日本人が「美味しい!」と言ってくれるのがとてもうれしい。



日本語ボランティア養成講座のワークショップに会話練習相手として参加したベトナム人(右側)。受講者のみならず、彼らにも貴重な体験となっている。



浴衣の着付けは地域の皆さんがボランティアで。お礼として、踊り手が少なくて輪ができない盆踊りに参加して、盛りあげに役買っている。

Data

島根県 江津市 (こうつし)

団体名 ▶ GOTO☆ワンハート

所在地 ▶ 〒695-0024 島根県江津市二宮町神主イ987

連絡先 ▶ TEL: 0855-53-0980

E-mail: santo809jamaica@gmail.com

【交通のご案内】

自動車 ▶ 中国(千代田)・浜田自動車道・江津道路 江津西ICから5分

鉄道 ▶ JR山陰本線江津駅から自動車で10分

飛行機 ▶ 出雲縁結び空港から国道9号経由で1時間50分

広島空港から広島・中国(千代田)・浜田自動車道経由で1時間30分

萩・石見空港から国道9号経由で1時間30分

● 国勢調査人口

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
江津市	41,248	32,785	29,377	27,774	25,697	24,468

(単位: 人)

● 人口増減率

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
江津市	-37.7	-21.6	-12.5	-7.5	-4.8

(単位: %)

● 高齢者・若年者比率(H27年)

市町村名	高齢者比率	若年者比率
江津市	36.6	11.3

(単位: %)





総務大臣賞

平成2～30年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰

総務大臣賞 受賞団体一覧 (平成12年度までは、国土庁長官賞)

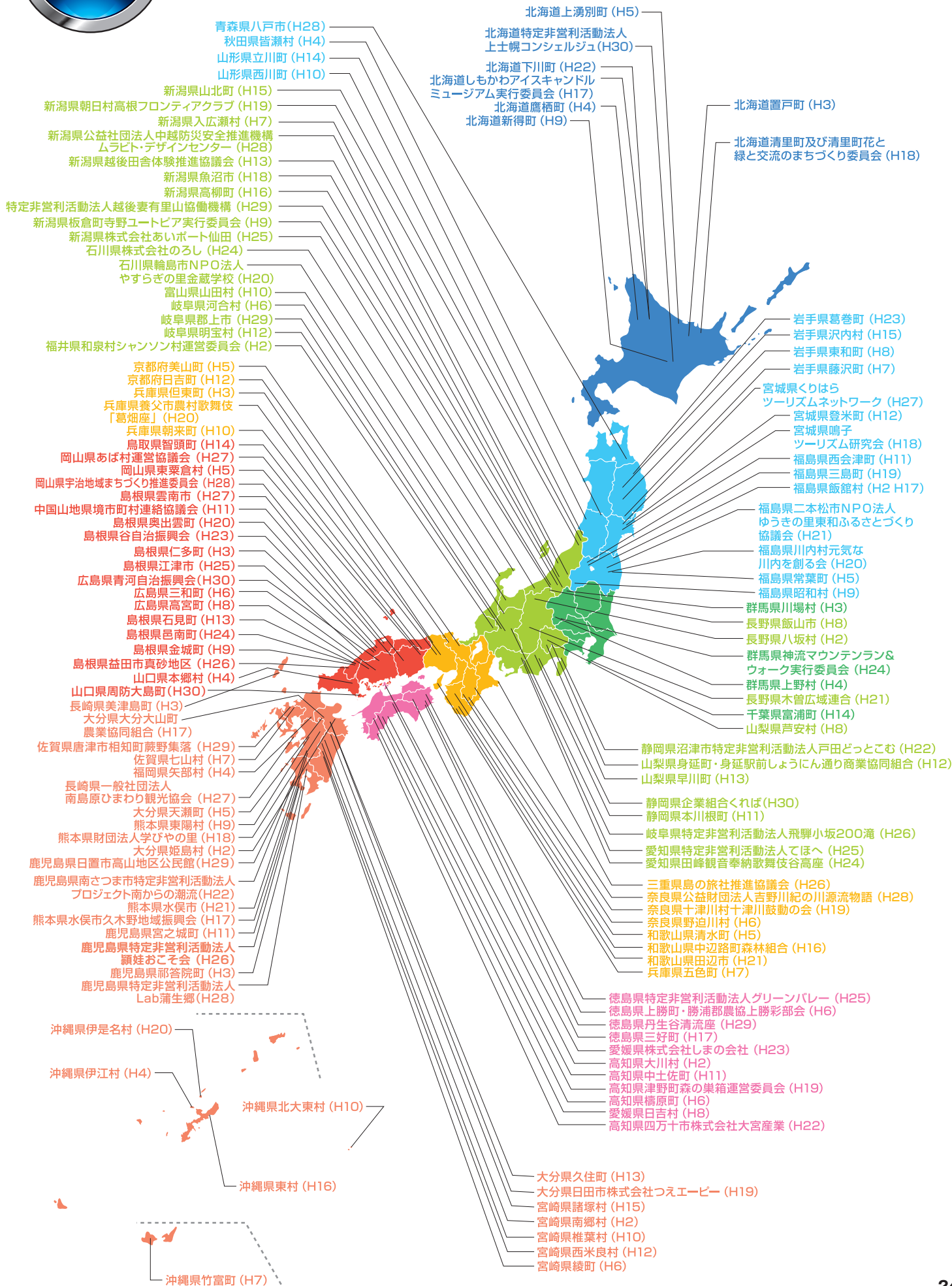
年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯館村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
平成3年度	宮崎県	南郷村	
	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
平成4年度	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
平成5年度	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
平成6年度	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東栗倉村	
	大分県	天瀬町	
	岐阜県	河合村	
平成7年度	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	高知県	梶原町	
	宮崎県	綾町	
平成8年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入込瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成9年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成10年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成11年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成12年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成13年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町・身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成14年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	
	山形県	立川町	
平成15年度	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成15年度	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	
	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
平成16年度	沖縄県	東村	
	北海道	しもかわアイスクャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯館村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
平成17年度	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
平成18年度	福島県	三島町	
	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえエービー	日田市
平成19年度	福島県	元気な川内を創る会	川内村
	石川県	NPO法人 やすらぎの里 金蔵(かなくら)学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
平成20年度	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
	長野県	木曽広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
	北海道	下川町	
平成21年度	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
平成22年度	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
	群馬県	神流マウンテンラン&ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	珠洲市
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
平成23年度	新潟県	株式会社 あいポート仙田	十日町市
	愛知県	特定非営利活動法人 てほへ	東栄町
	島根県	江津市	
	徳島県	特定非営利活動法人 グリーンバレー	神山町
	岐阜県	特定非営利活動法人 飛騨小坂200滝	下呂市
平成24年度	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 頼娃おこそ会	南九州市
	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
平成25年度	岡山県	あば村運営協議会	津山市
	長崎県	一般社団法人 南島原ひまわり観光協会	南島原市
	青森県	八戸市	
	新潟県	公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター	長岡市
	奈良県	公益財団法人 吉野川紀の川源流物語	川上村
平成26年度	岡山県	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 Lab蒲生郷	始良市
	新潟県	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構	十日町市
	岐阜県	郡上市	
	徳島県	丹生谷 清流座	那賀町
平成27年度	佐賀県	唐津市相知町 蕨野集落	唐津市
	鹿児島県	日置市高山地区公民館	日置市
	北海道	特定非営利活動法人 上士幌コンシェルジュ	上士幌町
	静岡県	企業組合 くれば	島田市
	広島県	青河自治振興会	三次市
平成28年度	山口県	周防大島町	
	新潟県	新潟県朝日村高根フロンティアクラブ (H19)	
	新潟県	新潟県公益社団法人中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター (H28)	
	新潟県	新潟県越後田舎体験推進協議会 (H13)	
	新潟県	新潟県板倉町寺野ユートピア実行委員会 (H9)	
平成29年度	新潟県	新潟県魚沼市 (H18)	
	新潟県	新潟県高柳町 (H16)	
	新潟県	新潟県板倉町寺野ユートピア実行委員会 (H9)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
平成30年度	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	
	新潟県	新潟県株式会社あいポート仙田 (H25)	



総務大臣賞

受賞団体位置図





平成3～30年度 過疎地域自立活性化優良事例表彰

全国過疎地域自立促進連盟会長賞 受賞団体一覧 (平成11年度までは、全国過疎地域活性化連盟会長賞)

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	小川村
	長野県	株式会社小川の庄	
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鷺沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	
平成12年度	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	
平成13年度	広島県	作木村	矢部町
	熊本県	菅地域振興会	
	北海道	浜益小劇場	
	静岡県	妻良観光協会及び子浦観光協会	
	和歌山県	美山村	
平成14年度	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
	青森県	NPO法人グリーンエネルギー青森	鯉ヶ沢町
平成17年度	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
	奈良県	曾爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
平成18年度	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮城県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
平成19年度	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成20年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすくベグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成21年度	北海道	素敵な過疎づくり 株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社 萩の会	益田市
	宮城県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成22年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO法人 ひっぽUIターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成23年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人 奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄ろ会みなまた	水俣市
平成24年度	鹿児島県	一般社団法人 なかわり生姜山農園	西之表市
平成25年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんでこい丹生谷運営委員会	那賀町
	福島県	一般社団法人 IORI倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
平成26年度	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成27年度	長野県	特定非営利活動法人 ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人 うちのの館	五條市
	和歌山県	真田いこい茶屋	九度山町
平成28年度	福井県	池田町	
	愛知県	一般社団法人 おいでん・さんそん	豊田市
	愛媛県	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
	岡山県	中和地域づくり委員会	真庭市
	岡山県	梶並地区活性化推進委員会	美作市
平成29年度	山口県	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	長門市
	徳島県	四国の秘境 山城・大歩危妖怪村	三好市
	愛媛県	まちづくり学校双海人	伊予市
平成30年度			



受賞団体位置図

